

経営比較分析表

山形県 新庄市

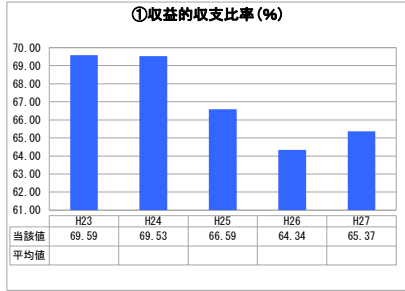
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc2	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	51.89	72.62	3,726

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
37,204	222.85	166.95
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
19,114	5.03	3,800.00

グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成27年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



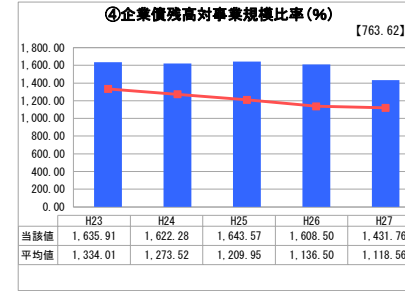
「単年度の収支」



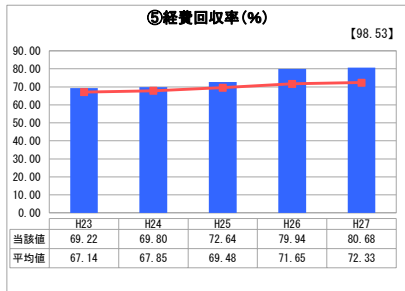
「累積欠損」



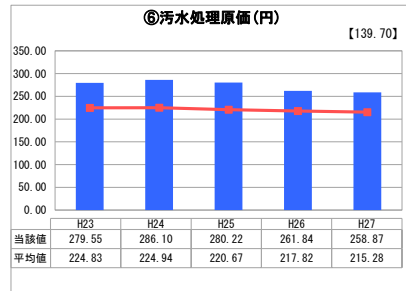
「支払能力」



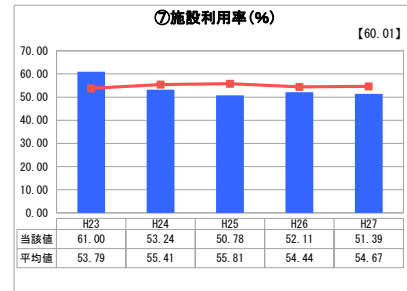
「債務残高」



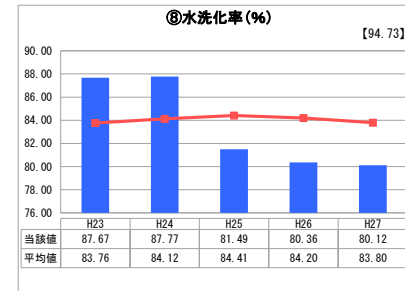
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

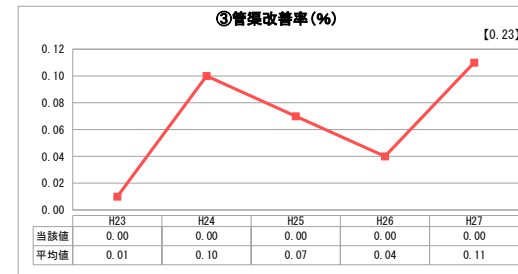
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

未だ建設途上であり地方債償還金の割合が高いため収益的収支比率が低く、多額の一般会計繰入金により補てんされている。

また、「新庄市中期財政計画」に基づき地方債発行額を抑制し残高の縮減に努めている。地方債現在高が多く企業債残高対事業規模比率が高いが、償還ピークは過ぎてきているため今後は減少が見込まれる。

汚水処理原価は類似団体平均より高いが、5年間で20.68円削減され経費回収率が上昇している。

整備人口の増加に対して行政人口の減少と同様に既存整備区域内人口も大きく減少しており、近年の節水指向もあり有収水量の伸び率が低下している。

使用料収入確保のため水洗化率の向上に取り組み有収水量の増加を図り、使用料の改定、維持管理費の削減が必要である。

* 施設利用率
平成23年度の処理場改修工事で流入流量計の更新し読取り数値の誤差を改善し効率性を高めたことで、平成24年度より汚水処理水量が減少し施設利用率が減少している。

* 水洗化率について
近年の人口減少を考慮し平成25年度より水洗化人口の算定方法を変更したことにより低下している。

2. 老朽化の状況について

管渠の更新時期には至らないものの今後は計画的に老朽化対策を行う必要がある。平成元年の供用開始より27年を経過しているが建設途上で管渠整備・処理場への投資を先延ばしを得ない状況にあるため緊急性の高い修繕のみを対応している。

全体総括

人口減少による使用料収入の低下、老朽化による施設の更新など経営環境は厳しさが増すため、経営状況を的確に把握し、経営基盤の強化と財政マネジメントの向上に取り組む必要がある。

中長期的な視点で経営改善や投資の見直しを行い、持続可能なサービスの提供のため、平成32年度の公営企業法適用に向け移行準備を進めている。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。